

## 令和7年度学校総合評価

### 6 今年度の重点目標に対する総合評価

学校の現状を踏まえ、今年度の重点課題として①防災意識の向上、②進路選択に向けた関係機関との連携と安定した職業生活の2項目を挙げた。

各重点課題の評価については、学校評議員の意見も踏まえ、達成度及び具体的な取組状況から総合的に判断し、①②ともに「A：達成した」とした。学校評議員からは、以下の評価や提言をいただいた。

#### (1) 重点課題①

- ・災害に際してのメンタル面でのフォローもあるとよい。
- ・人命を守ることは基本中の基本であるので、これを機に誰が担当してもできる、この地域に合った防災の在り様を、ハード面（設備や物資）とソフト面（人的役割）をシステム化し、整備してもよいのではないか。
- ・意識の向上だけでなく、実践力につながるような支援をしていくことが大切である。

#### (2) 重点課題②

- ・一般の高校と違い、一人一人手厚く本人の意思や特徴を踏まえて進路指導をしている。
- ・アンケートで相談する人がいないと答えた卒業生に対して、相談できる人がある程度限定しておくなどのアフターケアがあればよい。移行支援会議に多くの方が参加していることで安心感につながる。卒業後に相談するところが多いのはありがたいことである。

### 7 次年度へ向けての課題と方策

今年度の重点課題の次年度へ向けた方策等は以下のとおりである。今年度の成果を踏まえ、次年度も「社会的・職業的自立を目指す学校」として、よりよい取組を進めていきたい。

#### (1) 重点課題①

- ・今年度は生徒中心の取り組みを重点に実施し、生徒の防災意識は高まったが、次年度は保護者や教員にも啓発していき、学校全体で防災意識を高め、避難訓練等とおして有事の際の適切な行動を定着させていくことが必要である。これを機に、設備や物資等のハード面と人的役割等のソフト面を、地域の実情に合わせて誰が担当してもできるようなシステムを考えていきたい。

#### (2) 重点課題②

- ・今年の事例を参考に、要支援家庭の生徒にも対応できるガイドラインのスケジュール化を進めていきたい。
- ・卒業生からの声をより多く聞き取れるように、アンケートの方法を工夫した上で、問題や悩みを抱えている場合は事業所や関係機関と連携しながらサポートしていきたい。

8 学校アクションプラン

令和7年度 高岡高等支援学校アクションプラン - 1 -	
重点項目	学校生活
重点課題	防災意識の向上
現 状	<p>これまで、災害時や緊急時に対応するために避難訓練をはじめとした訓練や指導を実施してきた。指導直後は生徒の防災意識の高まりがみられるが定着しているかは分からない。しかし昨年の能登地震を経験し、いつ災害が起きてもおかしくない中、有事の際に適切に対応、行動できる力を身に付けておく必要がある。</p> <p>本校は高岡市の地震、洪水、土砂災害の避難場所として指定されており、学校独自に緊急時に備えた備蓄品を整備している。これまで実際に避難所が開設された災害が起きているが、休日や課外時間であったため生徒や教職員が避難して備蓄品を使用することはなかった。</p> <p>いざという時に備え、自らの命を守る「自助」力と、自分や他の人のことを考えて行動できる「共助」を意識した指導を実施することで防災意識の向上を目指す。</p>
達成目標	防災意識が高まった生徒の割合90%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>○専門知識を有した関係機関との連携 <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部講師による薬物乱用防止教室や防災教室などを実施し、防災意識を高める。</li> </ul> </li> <li>○生徒保健委員会での活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害についての基本的な知識を身に付け、備蓄品整備等、校内におけるリーダーとしての活動を行う。</li> </ul> </li> <li>○各教科での関連した体験学習 <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭科での備蓄品体験や非常食の試食体験、保健体育での救命講習などを実施することで生徒の興味関心を高め、防災意識の向上を図る。</li> </ul> </li> </ul>
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>○専門知識を有した関係機関（外部講師）との連携 <ul style="list-style-type: none"> <li>・薬物乱用防止教室（1年生：高岡警察署、2年生：学校薬剤師）</li> <li>・避難訓練、消火器体験（全校生徒：高岡消防署）</li> <li>・まちづくり出前講座（保健委員：高岡市危機管理課防災アドバイザー）</li> </ul> </li> <li>○生徒保健委員会での活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災ヘルメット試着デモンストレーション</li> <li>・災害備蓄用品整備</li> <li>・保健集会の企画（防災クイズ、防災グッズ作成）、運営</li> </ul> </li> <li>○各教科と関連した学習内容や体験学習 <ul style="list-style-type: none"> <li>・理科・・・地震（液状化）のしくみを知ろう（実験）（1年生）</li> <li>・社会・・・自然災害を防ぐ工夫（全学年）</li> <li>・家庭・・・防災を考えよう（備蓄品体験、非常食の作り方と試食）（2年生）</li> <li>・保健体育・・・救命講習会（3年生）</li> </ul> </li> </ul>
評 価	A アンケート結果：防災意識が高まった50%、少し高まった45.2%
学校関係者の意見	<p>災害に際してのメンタル面でのフォローもあるとよい。</p> <p>人命を守ることは基本中の基本であるので、これを機に誰が担当してもできる、この地域に合った防災の在り様を、ハード面（設備や物資）とソフト面（人的役割）をシステム化し、整備してもよいのではないかと。</p> <p>意識の向上だけでなく、実践力につながるような支援をしていくことが大切である。</p>
次年度へ向けての課題	<p>生徒の防災意識は高まったが、次年度は保護者や教員にも啓発していき、学校全体で防災意識を高め、避難訓練等とおして有事の際の適切な行動を定着させていくことが必要である。これを機に、設備や物資等のハード面と人的役割等のソフト面を、地域の実情に合わせて誰が担当してもできるようなシステムを考えていきたい。</p>

重点項目	進路支援	
重点課題	進路選択に向けた関係機関との連携と安定した職業生活	
現 状	<p>本校では、教科学習や作業学習の中で生徒の働く力を高め、就労に必要な知識・技能・態度を身に付け、卒業後の一般就労を目指している。</p> <p>進路指導においては、将来の就労に関する計画的・系統的な学習指導を行い、一人一人の生徒が自分に合った進路や就労形態を選択できるよう支援している。近年は生活する場の確保や相談支援員の選定などが必要な生徒が増えてきており、学校生活から将来の職業生活へのスムーズな移行を図るためには、企業やハローワークの他、福祉や行政等の関係諸機関とも連携して支援していく必要がある。</p> <p>また、卒業後には3年間のアフターケアを実施しているが、個々の悩みなどを詳細に確認する機会が少なく、一定数の離職者が見られる。</p>	
達成目標	①福祉や行政との連携が必要になるケースのガイドライン作成	②アンケート調査を通じた職業生活についての問題の改善
方 策	<p>①・生徒の希望に沿った職業選択を進められるよう、ハローワークや障害者就業・生活支援センターと随時情報を共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・早期に市役所等の行政機関と連携を図り、卒業までの具体的なスケジュールの把握や必要な手続等の情報を得る。</li> <li>・児童相談所や市障害福祉課等の担当者と、将来の社会生活について検討する。</li> </ul> <p>②・同窓会総会や学校行事に参加した卒業生に対しアンケートを実施し、職業生活について問題がないか把握する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート結果より、問題を抱えている卒業生がいた場合には、個別に状況を聞いたり解決に向け関係者等と話し合ったりする。</li> </ul>	
達成度	①必要に応じて関係機関と連携し、卒業後の進路や生活を決定 → ガイドラインの策定	②アンケートを実施し、悩みのある卒業生への対応 100%
具体的な取組状況	<p>①・年度当初に卒業生の進路に関する情報や家庭状況等を、ハローワークや障害者就業・生活支援センターと共有した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童養護施設で生活している生徒（以下、対象生徒とする）については、6月に児童相談所と施設を含めた3者の話し合いをもち、卒業後の生活の場や社会生活に関する支援を委託できる行政機関を確認した。7月と12月に関係機関と連携会議を開催し、卒業までのスケジュールや各々の機関の役割について確認した。</li> <li>・9月上旬の就業体験を通して卒業後の進路先の見通しが立ったことで、下旬には対象生徒の支援を依頼する行政機関と経緯や今後の支援について共通理解を図った。</li> </ul> <p>②・同窓会総会と文化祭で来校した卒業生を対象に「仕事に関するアンケート」を実施した。延べ72名が回答し、その内仕事の悩みがあると回答したのは8名（11%）だった。悩みがある者のうち誰かに相談したのは7名（87.5%）で、していないのは1名（12.5%）だった。周りに相談できる人がいると回答したのは56名（78%）で、いないのは13名（18%）無回答が3名（4%）だった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・悩みがあると回答した者の中で、解決できていないと答えた1名には直接話を聞き、支援を求める内容を事業所に伝えた上で労働環境等の改善について話し合った。</li> </ul>	
評価	A	A
学校関係者の意見	<p>児童養護施設入園者のガイドラインは実践に基づいて作られている。一般の高校と違い、一人一人手厚く本人の意思や特徴を踏まえて進路指導をしている。</p> <p>アンケートで相談する人がいないと答えた卒業生に対して、相談できる人をある程度限定しておくなどのアフターケアがあればよい。移行支援会議に多くの方が参加していることで安心感につながる。卒業後に相談するところが多いのはありがたいことである。</p>	
次年度へ向けての課題	<p>児童養護施設以外の要支援家庭の生徒にも対応できるよう、今年的事例を参考にスケジュール管理していくための基盤としたい。</p> <p>卒業生からの声をより多く聞き取れるようアンケートの方法を考え、問題や悩みを抱えている場合には事業所や関係機関と連携しながらサポートしていきたい。</p>	